

日新学寮跡地に記念碑を建てよう！！

趣意書

日新学寮跡地に記念碑を建てる会

代表=田中哲二 副代表=瀬志本誠・高橋潔 事務局長=池上正治

<日新学寮の跡地の今>

昨年の初秋、数十年ぶりに訪れた東京都中野区上高田にある日新学寮跡地でのことです。カーン、カーンというゲートボールの音が響いていました。その乾燥した音が聞こえてくるのは、かつて寮監の先生たちの住まいがあり、寮生の通用口があったあたりでした。

そこには今、鉄筋二階建ての「中野区立上高田高齢者会館」があります。

一方、日新学寮の表玄関があったはずのあたりには、「中野区立上高田二丁目公園」という赤御影石の標識がありました。この標識と高齢者会館の間にはかつて、日新学寮の建物があり、グラウンドがありました。

現在、敷地の周囲に何本かの樹はありますが、そこは大きく、広い空間です。

この大きな空間は、われら寮生が青春を燃焼させ、寝食をともにした場所です。通学も、アルバイトも、ここから出発し、ここに帰ってきました。また口角泡を飛ばして激論したり、ときに痛飲したりした場所でもありました。

3年前にまとめられたDVD冊子『東京外語 日新寮アーカイブズ』（1924-1979）にあるように、1924年（大正13）に誕生した日新学寮は、半世紀以上にわたる星霜を経て、1979年（昭和54）その歴史に幕を閉じたのでした。

<日新学寮の跡地に記念碑を！>

かなり前から、一部の元寮生の中で「寮の跡地に石碑（いしぶみ）を建てたい」という声があがるようになりました。それは、自分たちの学生時代の痕跡を形として残し、東京外国語大学に全国でも有数の完全自治寮があったことを後世に伝えたいという、熱い想いに駆られてのことです。この声はそれほど大きくはありませんでした。だが、最年少の寮生でも60歳代半ばという事実を考えれば、とにかく行動を起こすのは今しかない、

とわれらは考え、敢えてそれに挑戦することにしました。

既に外語大当局と中野区からは了解を得ました。特に学長からは絶大なご理解をいただいております、次の主旨の言葉をいただいています。

「日新寮の跡地に記念碑を建てることは大学にとっても大変に意義深いものであり、実現を希望している。大学としても支援していく所存である」

この学長表明にあるように、石碑の建立は、元寮生を含む多くの東外大生に母校との絆を、再度、強く認識させるものとなることは請合いです。

願わくば、今年の晩秋までには記念碑を完成させ、それを上高田のわれらの寮の跡地に建てたいと思っています。その暁には除幕式と併せて、最大規模の、あるいは最後となるかも知れない寮生大会を開くことも計画しています。

<「日新学寮跡地に記念碑を建てる会」と「日新寮アーカイブズをつくる会」>

前述のDVD冊子『東京外語 日新寮アーカイブズ』（1924-1979）は、3年前、元寮生の有志の集り「日新寮アーカイブズをつくる会」が6年がかりで完成させました。

この度の「記念碑を建てる会」は、それとは別であり、顧問の伊東光晴先生を初めとする多くの方々のご理解と賛同を得て、元寮務委員長の田中が代表をする、もう1つの組織として活動するものです。

日新学寮に関することから、「つくる会」と重なる部分がありますが、「建てる会」は記念碑の実現に特化するもので、これから活動を進めて参ります。「建てる会」に対しましても、「つくる会」同様、格段のご協力とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

なお、本会の顧問や発起人、想定される石碑サンプル、それに必要とされる費用、そのための募金の方法などについては、別紙をご覧ください。

ご理解・ご支援を賜りますよう、重ねて、伏してお願いする次第です。

2016年 2月 吉日

以 上